

NPO 法人 ホースプラネット (仮称)

～ 馬と過ごす豊かな生活 ～

事業計画案

はじめに

この度、「馬」の持つ癒しの力「ホースセラピー」を最大限に活用して、社会福祉の一役を担うべく『NPO 法人ホースプラネット』を立ち上げる事にいたしました。

「ホースセラピー」は、馬に触れる、乗る、またそれを手伝う行為によって、大変多くの効果が期待できます。

また、日本における「馬」の存在意義を高め、馬を扱う仕事に従事する「人」にとっての社会的地位向上や、生命を扱うに見合った資質向上も大きなテーマであります。

そして、競馬や乗馬、障がいのある方からお年寄りまで、馬が活躍する社会をもっと広め作って行く事が、馬に携わる私達の馬達への恩返しでもあると信じています。

馬達と過ごす文化において、日本は常に後進国という立場にあります。

国土や社会の適性から外れ、馬という動物は少数であり産業動物という存在です。

しかし、超高齢化社会、高齢出産、核家族、単身世帯、共働き・・・ という新たな局面を迎えた日本の実情を憂慮した時に、発展する機械やテクノロジーでは埋められない問題を、動物介在療法やデイサービスが多くの皆さんの生活の助けになれるのではないのでしょうか？

そこで、2020年東京オリンピック・パラリンピックを一つの契機と捉え、新事業の発足を構想いたしました。

2015年から、千葉県障がい者スポーツ協会と共に、パラ馬術競技の普及活動に努めてまいりましたが、スポーツから福祉へと培った経験を活かしていきたいと思っております。

着想から、事業所開設には十分な時間を用意しました。

簡単な道のりではないと思いますが、理念と決意をもって一つ一つ開設に向けて準備したいと思っております。

多くの方のご賛同を得られる事を念じて、事業計画を進めて参ります。

何卒宜しくお願い申し上げます。

2017, 11

発起人 一般社団法人日本障がい者乗馬 千葉支部
代表取締役 塚本めぐみ

ホースセラピーの可能性

デイサービス・放課後デイサービス・ホースセラピーイベント・講習会・訪問活動・障がい者作業所

目次

1. アニマルセラピーについて
2. ホースセラピーとは？
3. NPO 法人設立
4. デイサービス
5. 放課後デイサービス
6. ホースセラピーイベント
7. 講習会
8. 訪問活動
9. 障がい者作業所
10. 人材確保と費用
11. 施設
12. あとがき
13. 宮路満英氏レポート（障がい者乗馬からリオパラリンピック出場選手へ）

1 アニマルセラピーについて

アニマルセラピーとは、動物を使ったセラピー手法のこと。日本での造語である。

アニマルセラピーの利点として、生理的利点・心理的利点・社会的利点の3点が挙げられる。

動物との触れ合いで、内在するストレスを軽減させたり、自信を持たせたりして精神的な健康を回復させることができると考えられている。

動物介在療法	医療従事者が治療の補助として用いる Animal Assisted Therapy (AAT) アニマル アシステッド セラピー *大動物 馬やイルカ
動物介在活動	動物とのふれあいを通じた生活の質の向上 Animal Assisted Activity (AAA) アニマル アシステッド アクティビティ *小動物 犬やウサギハムスターなど
動物介在教育	子供達に道徳観や精神的、人格的な成長がもたらされる学習方法 Animal Assisted Education アニマル アシステッド エデュケーション (AAE) *大小動物

2 ホースセラピーのとは？

正式名称を乗馬療法（ホースアシステッドセラピーHorse Assisted Therapy）という。乗馬を通じて、あるいは馬の手入れ、馬の飼養管理、厩舎の管理、馬の観察などを通じて、障がい者の精神機能と運動機能を向上させ、社会復帰を早めるリハビリテーションの方法の一つ。

起源

古代ローマ帝国時代に戦場で傷ついた兵士たちのリハビリテーションに乗馬が用いられた

と言われている。

近代では 1670 年イギリスで、初めて治療として乗馬を取り入れる。

1952 年ポリオの後遺症をもったリズ・ハーテルがヘルシンキオリンピック馬場馬術で銀メダルを受賞、乗馬のできる理学療法士たちがハーテルと共にコペンハーゲンで乗馬療法を開始。

1964 年英国で障がい者乗馬助言委員会が初めて全国組織として結成。

1969 年イギリスのアン王女が総裁を務める RDA（障がい者乗馬協会）が発足。

国際組織としては、FRDI（the Federation of Riding for the Disabled International/国際障がい者乗馬連盟）が設立され、日本を含む 46 の国や地域が加盟しています。（現在は HETI）

様々な障がい者乗馬

ヒポセラピー

患者の治療のために馬を用います。この場合、騎乗者ではなく「患者」と呼ばれます。馬の動きは左右対称のバランス、神経系統、骨格筋の発達促進などのために確立された特別な理学療法的手法として利用されます。

理学療法士がプログラムの責任者であり、治療に必要な馬について精通していなければなりません。

セラピューティックライディング

騎乗者の能力を進歩させ、喜びや楽しさを与えるために乗馬指導を行います。

副産物として、身体的、精神的、心理的および社会的な改善をもたらします。

インストラクタープログラムの責任者であり、理学療法士や教師などは、騎乗者の能力を最大限に進歩させるために支援します。

レクリエーションとしての乗馬

健康のための楽しみや運動、社会参加を目指した乗馬です。

生活スタイルや行動範囲が限られてしまいがちな障がい者たちによって大きな効果をもたらします。

最大の効果は、全ての人が願う健康維持です。

パラ馬術（身体障がい者）

パラリンピックや世界選手権等に代表される、競技スポーツ。主に馬場馬術競技によって競技がおこなわれます。（一般社団 日本障がい者乗馬協会）

障がいの重さによって5階級にクラス分けされ、演技の得点によって競うスポーツです。他のスポーツと違って男女、障がいの種類によって区別されないことが特徴です。

*知的障がい者はスペシャルオリンピックス

3 NPO 法人設立

特定非営利活動法人（NPO 法人）とは、社会的貢献活動を行って、団体の構成員（株式会社という株主と同じような立場の人です）に対しては収益を分配することを目的としない団体。

NPO 法人は NPO についての基準などの様々な要件を定めている特定営利活動促進法という法律によって法人としての存在を認められたものであります。

具体的には、環境問題、国際協力、文化の保護、地域活性化、社会福祉、教育などに代表されるように、様々な分野で社会的なニーズのある活動が求められています。

4 デイサービス

通所介護（デイサービス）とは、日帰りで施設に通い、日常生活上の介護や機能訓練等を受けることのできるサービスです。65 歳以上又は 40 歳以上 64 歳未満で要支援 1～5 の認定を受けた方が対象です。

施設で他の利用者と接することで引きこもりや孤立を防ぎ、また介護をする家族にとっても負担を軽減することができます。

5 放課後デイサービス

放課後デイサービスとは、障がいのある就学児向けの学童保育のようなサービスです。

2012 年の児童福祉法改正により設置された、比較的新しいサービスで、就学している障がい児につき、授業の終了後又は休業日に児童発達支援センターその他厚生労働省令で定める施設に通わせ、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の学習をすることが目的です。

6 ホースセラピーイベント

乗馬は主にヨーロッパを中心とするスポーツです。アジアや日本では乗馬はマイナースポーツです。その中で、さらに障がい者向けの乗馬となると更に競技人口が少なくなります。福祉活動としてホースセラピーに携わる団体も複数ありますが、そのほとんどが多くのボランティアによって支えられています。

近年では大学や専門学校などにもホースセラピーを学ぶ機会も増えてきていますが、ホースセラピーという仕事に就くという環境にはまだまだ程遠いのが現状です。

障がい者を馬に乗せる場合は馬を引く人、支える人等最大で4人のスタッフが必要です。その為人件費や馬と場所の確保に費用がかかってしまい、ボランティアでのサポートがなければ運営できないという状態です。

スポーツでも福祉でも、普及させて行く事が何よりも大事な事だと考えます。

その為、支えるスタッフ、体験する騎乗者、社会や行政など様々な分野に広く情報発信していく為にもホースセラピーイベントの開催が重要です。

7 講習会

動物を使って交流を図る場合、人にも馬にも安全な運営が何よりも大切になります。

馬という動物を正しく管理する為には、専門の知識と経験が必要です。

また、様々な年齢や障がいに対して適切な対応を取る事も、ホースセラピーに関わる者全てに求められます。その為、各分野の講師等による勉強会や講習会を定期的に行い学んで行く事が欠かせません。

8 訪問活動

コミュニティーは園児、学校、老人ホーム、病院、公的施設、民間企業等々多様化して存在します。

ホースセラピーイベントに集まるだけでなく、ホースセラピーが各所に訪問しサービスを提供する事も知見を広める為にも有効な手段だと考えます。

特に、移動の自由が制限される対象者の方には最大の効果が望めます。

また、不慣れな環境でも安全を担保する為には、馬に乗る事に限らずにミニチュアポニーとの触れ合いや、馬との関わりから見る地域の歴史や歩み等を学ぶ場とする機会とし

でもホースセラピー活動の一環となると考えます。

9 障がい者作業所

障がいを持っている人にとって仕事に就くという事は容易ではありません。

その障がいの程度にもよりますが、その人にとって可能な作業をし社会の一員であるという共感を持つことは、生きがいを感じたり生活の向上にも繋がります。

マイナースポーツで専門性の高い乗馬クラブという業界は、常に慢性的な人手不足の状況にあります。使用する管理地も広大な為に、施設管理等にも多くの労力が伴います。その為、障がい者でも安全に留意して、直接馬の世話をせずとも乗馬クラブや牧場等での労働の機会を得られると考えます。

また、絵などの作品やグッズ等を作成し販売するなども、特技や才能を発揮する機会となるはずです。

10 人材確保と費用

ホースセラピーを提供するには、馬を扱う人の他にも医師や理学療法士、作業療法士等その障がいや機能訓練について専門的な知識がある人が必要です。

また、国内外で障がい者乗馬に携わってきた経験ある指導者やホースセラピーによる効果などの資料も参考にしなければなりません。

ホースセラピーを行うには、馬・人・場所が必要不可欠です。その他安全にホースセラピーを行うには必要になる道具も沢山あります。

適性があり良く訓練された馬や、様々な人や物を揃えていく事で、安全に治療効果のある

活動が実現されます。しかし、この膨大な作業に費用効果を出すのは難しく、会員会費や行政、民間企業の理解と協力が必要になっていきます。公的財団などによる助成金等も活用していきます。

11 施設

NPO 法人ホースプラネットは、千葉県八街市山田台285 コルザホースクラブ内に設

置することとします。

イベント等開催時は、隣接する八街市教育委員会管理地「たけのこの里」公園、道路河川課管理地「残土置き場」「道路」を利用致します。

12 あとがき

障がい者乗馬やホースセラピーの可能性についてご紹介させて頂きましたが、今回レポートを作成するにあたり、様々な事柄を学ぶ良い機会となりました。

馬というツールを使って社会貢献活動は一体どこまで出来るのか？ 日々将来の成果を感じ、期待とやりがいを実感する時間でした。

実際の活動の中には、多くの困難と課題と向き合う事になるでしょうが、私が感じた様に興味を持ちこれから携わる皆様方も、きっと充実した学びに触れる事が出来ると思います。ホースセラピーは受ける側も提供する側も効果が期待できるのです。

また、ホースセラピーを提供できる団体は全国に点在しているものの、圧倒的に少数です。

千葉県では、NPO 法人ヒューマンセラピー協会 サイトウ乗馬苑が数十年にわたりホースセラピーを必要とする人達のニーズに応じてきました。

どの分野においても言えることですが、必ず後進が育たなければ築いたものも時間と共に衰退していくものです。

千葉県は全国で一番乗馬クラブが多い県です。馬のプロを目指す為の専門学校の数も一番で、県内には二つの競馬場もあります。関東圏、また全国から馬との歩みを求めて人が集まっているのですが、福祉においてはサイトウ乗馬苑のみに頼ってきたのが現状です。

東京に隣接するこの千葉県に、ホースセラピーを学び提供できる団体を作り上げていくことは必要な大きなテーマであると改めて痛感し、活動への意思をここに表明致します。